インタビュー

海城中学高等学校の取り組み

真のリーダーを育てる教育

”海城”の魅力を積極的に発信

一般知についてぶ リベラルアーツが不可欠

「新しい紳士の育成」を教育理念に掲げる海城中学高等学校（柴田澄雄校長、東京都新宿区）。学校改革が第3期に入り、グローバル社会に対応した真のリーダーを育てる教育を加速させている。校長特別補佐で教育推進研究センター長の中田大成氏（国語科）に、学校改革の経緯、目指すグローバル教育について伺った。

第1期から2期までの学校改革　課題設定解決型と体験学習プログラム

第1期学校改革は、創立百周年の翌年1992年から始まった。一斉授業だけではなく、生徒参加型授業を行い、「課題設定解決型」の学力育成を目指した。まず、社会科で探求型総合学習を開始した。自分で設定した課題について必ず取材し、レポートにまとめる総合学習を中1・中2の学期ごとに実施。中3では、原稿用紙で少なくても30枚の卒業論文を書き上げる。

第2期の学校改革は2002年から始まった。グローバル化を迎える中、しだいに低下しつつあった生徒たちのコミュニケーション能力の育成に取り組んだ。その具体的なものとして、体験学習プログラム「PA（プロジェクトアドベンチャー）と「DE（ドラマ・エデュケーション）」を導入した。「新しい人間力」として、互いの異質性を前提にした上で、相互に関わり合いつつ、お互いの良さを引きだし合いながら協働する力を養うプログラムだ。

中田センター長

第3期の学校改革　帰国生の受け入れ、グローバル教育部設置

2010年代に入り、高校からの生徒募集を廃止し、完全中高一貫教育を完成させた。同時に中学入学時に帰国生30人の受け入れを開始した。そして、2012年、グローバル人材育成に本格的に取り組むために「グローバル教育部」（校務分掌）を立ち上げた。

「帰国生の本格的な受け入れと同時に「帰国生支援室」を設け、帰国生の教科やメンタル面のサポートを行っていましたが、この組織を拡大発展させて、新たにグローバル教育部を設置しました」（中田センター長）

グローバル教育部　海外大学進学の支援等

グローバル教育部では、①帰国生の支援②在学生の留学支援（留学のための内規や、単位認定制度の整備、奨学金サポート）③新しい留学コースの開発④海外校との交流⑤英語教育の促進⑥海外大学進学の支援――に取り組んでいる。

昨年からは、海外大学進学の支援として、アメリカの共通テストのSATや、TOEFL対策を専任の外国人講師が指導している。進学のためのカウンセリングも充実させた。3年前から始めた年1回行っている海外大学への進学説明会には、今年は200人を超す保護者が来た。海外校との新たな交流開拓は、主にアジアを中心に進めている。生徒たちの間でも帰国生を中心に「グローバル同好会」が発足し、高校模擬国連の活動をメインに活動している。

このように学校改革を四半世紀にわたり継続してきているが、中田センター長は「以前は改革の内容を世間に十分にアピール出来ていなかった」と振り返った上で、「私学である以上、進学実績だけではなく、本校ならではの建学の精神や教育理念、それらを具現化した具体的な取り組みによって選ばれる学校を目指さなければなりません。今後は、改革の中身をより充実させるとともに、2月に全面リニューアルした学校HPなどを用いて積極的に”海城の魅力”を発信していきたい」と強調する。

最後に中田センター長は「世界の舞台でリーダーシップを発揮するには、歴史的大局観やぶれない価値観など、確固たる信念を持っていないと駄目で、それを獲得するには歴史の風雪に耐えてきた古典に親しむなどして、人間・社会に関する一般知について学ぶリベラルアーツが欠かせない」と基本的な考え方を示す。

同校は4月からICT教育部を立ち上げ、各教室に電子黒板機能の付いたプロジェクターを設置し、今後はグローバル化とともにICT教育にも力を入れていく方針だ。